

株主のみなさまへ	2
2015年度第2四半期累計期間セグメント別概況(連結)	4
第2四半期連結決算の概要	5
トピックス	6
株式の状況／株主メモ	7
株主インフォメーション	8

※ 金額単位の表示：本中間報告書においては、億円単位未満を四捨五入しています。

見直しに関する注意事項

本報告書にはOKIの戦略、財務目標、技術、商品、サービス、業績などの将来予想に関する記述が含まれています。こうした記述は、現在入手可能な仮定やデータ、方法に基づいていますが、これらは必ずしも正しいとは限りません。また、これら将来予想に関する記述は、OKIの分析や予想を記述したもので、将来の業績を保証するものではありません。これらの記述はリスクや不確定要因を含んでおり、さまざまな要因により実際の結果と大きく異なりうることをあらかじめご承知願います。

株主のみなさまには平素よりOKIグループの経営に対しまして多大なご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。第92期(2015年度)中間報告書をお届けするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

当第2四半期累計期間のOKIグループの業績は、情報通信システム事業およびプリンター事業における物量減の影響などから、売上高は前年同期比58億円減少の2,230億円となりました。営業利益は、物量減やプリンター事業における為替の影響などにより、同30億円減少の36億円となりました。経常利益は、前年同期には営業外収支で為替差益があったものの今期は為替差損が発生したことなどにより同69億円減少の27億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、同94億円減少の9億円となりました。

通期の見直しにつきましては、当第2四半期累計期間の業況を踏まえ、前回公表値を修正いたしました。情報通信システム事業における国内市場向け事業は、堅調に推移しています。しかしながら、海外市場では中国販売パートナー向けATMや、ブラジル景気低迷による現地子会社の売上が減少すること、さらにプリンター事業における既存商品での価格競争激化や為替の影響などにより、前回公表計画比で減収減益となる見込みです。

これらにより、通期業績につきましては、売上高が前回公表比300億円減収の5,150億円、営業利益が同130億円減益の170億円、経常利益が同135億円減益の145億円、親会社株主に帰属する当期純利益が同120億円減益の100億円となる見込みです。

配当につきましては、当初計画どおり1株当たり2円の間配当を実施させていただきました。今期末につきましては、1株当たり3円の配当を行う予定です。OKIは、株主のみなさまへの安定的かつ継続的な利益還元を最重要課題として、引き続き取り組んでまいります。

今期の計画につきましては、足元の業況を鑑みて見直しをさせていただきます。しかしながら、中国ATMについては、市場自体は依然として成長基調にあり、従来の販売パートナー向けの売上は減少しますが、10月にアライアンスを発表した新しいパートナーとともに、今後も中国ATM事業の拡大を進めてまいります。またブラジルでは、経済環境が厳しい中でも大型の入札案件を落札しており、さらに国内では現金処理機が好調です。このようにメカトロシステムを中心に、2020年に向けての社会インフラの整備やインバウンドなどの需要を獲得しながら、情報通信システム事業の拡大を図ります。

また、プリンター事業やEMS事業ではM&Aによって事業拡大の基盤を整備するなど、今後の成長に向けた取り組みを着実に進めています。OKIは、見直しました今期計画を確実に達成すると



代表取締役社長

川崎 秀一

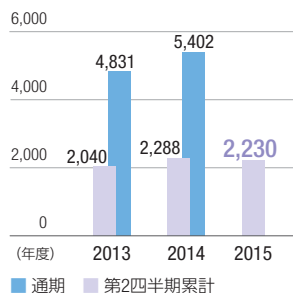
ともに、今後も「中期経営計画2016」の経営目標達成と将来の成長に向けて取り組んでまいります。

株主のみなさまには、これまでと変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

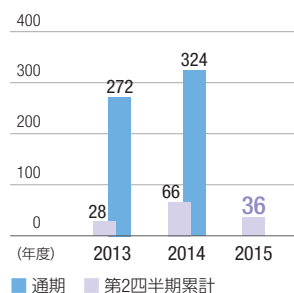
2015年12月

業績推移(連結)

売上高 (億円)



営業利益 (億円)



親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益 (億円)

